

口腔ケア共有票(案)について

この「口腔ケア共有票(案)」は、福祉避難所など、介助者が入れ替わり立ち代わりになる場所での「口腔ケアの介助の必要な方への口腔ケア方法の申し送り票」の試案として、歯科側で作成したものです。目的は、介助者によるケアの標準化を目指すためです。

福祉避難所においては、口腔ケアの介助にあたる医療福祉職のボランティアスタッフが入れ替わりまゐります。同様のことは、普段から病院や介護施設でも少なからずありますが、特定の集団の中で担当者が変わるのではなく、不特定多数に全国から集まる、職能も違う人たちに変わり続けることもあり、ケアの方法や手技の幅がかなり大きくなります。

また、福祉避難所を転々と移動することも散見されることで、移動回数に従って体調管理の困難さが増えることも指摘されています。

逆にいえば、普段からの退院、転院、施設入所、などにおいても、活用できる可能性もあります。

口腔ケアに関して、具体的に「この方にはこういう物品をこういう風に用いてこういう口腔ケアをやっていきます」ということが、できれば掲示しておいて触らずに見れるように片面 1 枚で記載できるもの、として検討しました。

病院や施設において、簡単な口腔ケアのステップを洗面台の鏡の前に貼っている、という取り組みを見たことがあります。その目的は、認知症などの高齢者ご自身向けでもあったかと思いますが、その日の担当者による口腔ケア介入のブレを防ぐ統一化ともなりえるでしょう。

内容は同じですが、グローブしたケア中に壁に貼ってある共有票を見やすくするために、片面 1 枚のみとした案と、文字を大きくして敢えて表裏としたもの(主にケア中に確認するのは裏面)とした案とを歯科側で作成しました。

歯科側で作成したこの案ですが、多職種には少し煩雑すぎるのではないかと意見もあり、多職種での共有票はもう少しシンプルにしたものとして検討が続けられることとなりました。しかし、歯科衛生士間ではこのくらいの細かさがないと口腔ケアの手順などのブレは大きくなるだろうとも思えますので、案のままではありますが記録として残しておくこととしました。

対象者： 口腔ケアの介助が必要な要介護高齢者等

目的： 介助者(主に歯科衛生士)が頻回に交代しても、対象者への口腔ケアの標準的手法が十分に伝達されて変わらずに続いていくこと

例)

- ・ バトラーの口腔ジェルとコンクールの口腔ジェル、口腔リンスなど似た用品が複数セットされていた場合
→ 次の担当者は、どれが義歯に塗るためのジェルで、どれが口腔保湿のためのジェルなのか、使い分けを確認しないと前任者の意図はわからない